

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

(参考) 主要品目の生産量の推移

(平成20年～令和元年)

利用者のために

1 食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の収集

(1) 調査の対象

食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の把握については、下表のとおり、各部門の品目に関して標本調査及び既存調査資料の収集により行っている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存調査資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査資料を収集し、活用したものである。

部 門	本調査の対象品目 (標本調査)	既存調査資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料 (非乳業)	食肉加工品、牛乳・乳製品、 食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工 品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん 類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、小 麦でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ等、マヨネーズ、 ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウ ーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマ ト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理缶・びん詰、レトルト食 品、包装もち
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、 焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 556 社
調査時期	令和元年 4 月～令和 2 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	313 社 (回答率約 56.3%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 27 年であり、基準数量は対象品目ごとの 27 年月平均生産数量である。指数値は 27 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	± 1 %未満
わずかに	：	± 1 ～ 3 %未満
やや	：	± 3 ～ 6 %未満
かなりの程度	：	± 6 ～ 11 %未満
かなり大きく	：	± 11 ～ 16 %未満
大幅に	：	± 16 %以上

食品製造業 総合

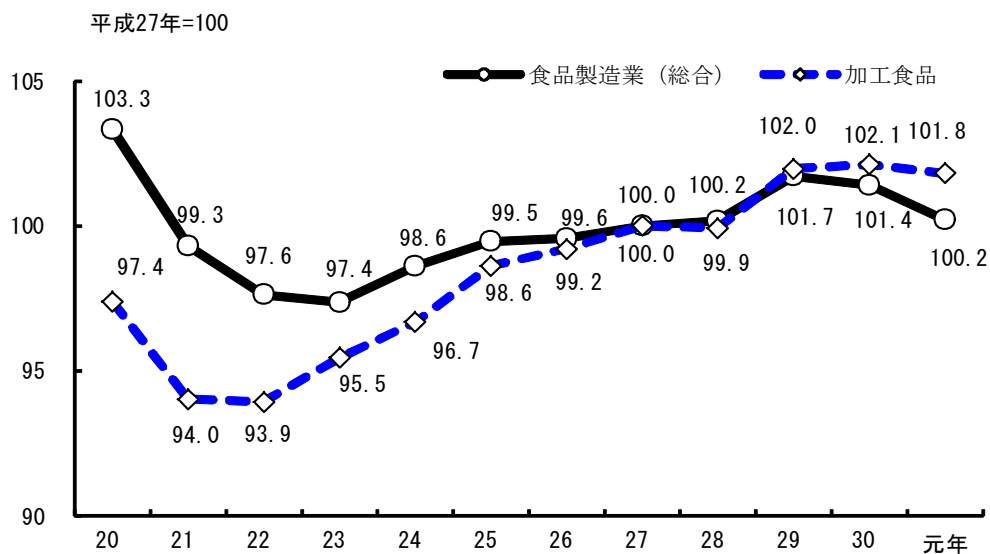
(1) 生産指数

令和元年の食品製造業（総合）の生産指数は100.2で、対前年比▲1.2%とわずかに低下

令和元年の食品製造業（総合）の生産指数（平成27年=100、暫定値）は100.2で、対前年比▲1.2%とわずかに低下した。また、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は101.8で、対前年比▲0.3%と前年並みであった。なお、近年の食品製造業（総合）の生産指数の推移についてみると、上昇傾向にあるが、平成30年及び令和元年は減少している（図2-1）。

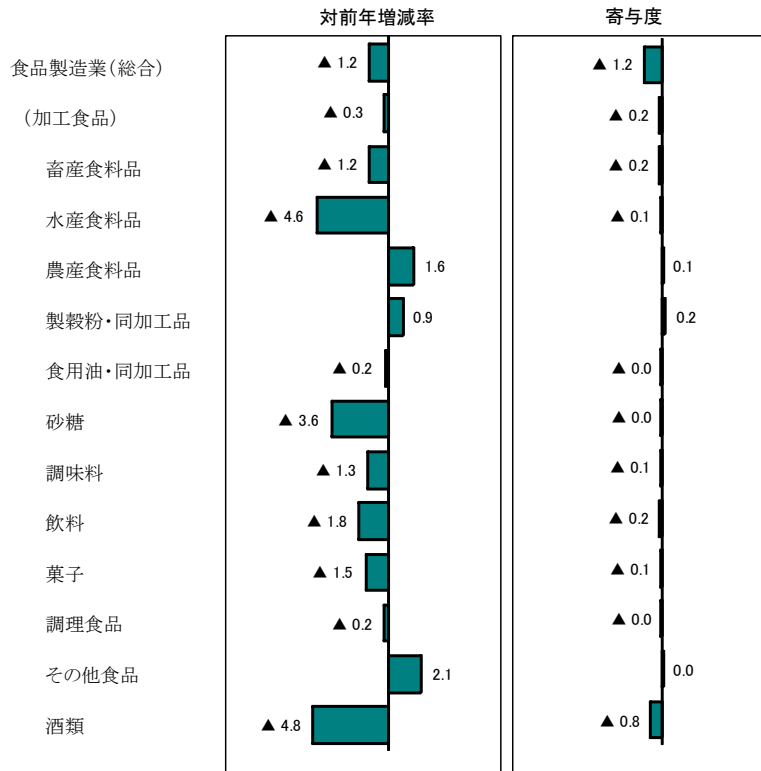
対前年比を部門別にみると、農産食料品及びその他食品がわずかに上昇した。一方、水産食料品、砂糖及び酒類がやや低下、畜産食料品、調味料、飲料及び菓子がわずかに低下した。また、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品及び調理食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の生産指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、製穀粉・同加工品及び農産食料品はプラスに、酒類はマイナスであった（図2-2、表2-1）。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	100.2	101.7	101.4	100.2	0.4	0.2	1.5	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 1.2
(加工食品)	7,279.5	100.0	99.9	102.0	102.1	101.8	0.8	▲ 0.1	2.0	0.1	▲ 0.3	▲ 0.2
畜産食料品	1,630.5	100.0	101.3	103.4	104.1	102.8	0.1	1.3	2.1	0.6	▲ 1.2	▲ 0.2
水産食料品	258.6	100.0	97.8	95.2	97.2	92.7	▲ 0.8	▲ 2.2	▲ 2.7	2.1	▲ 4.6	▲ 0.1
農産食料品	410.3	100.0	97.5	95.4	95.6	97.1	0.7	▲ 2.5	▲ 2.1	0.2	1.6	0.1
製穀粉・同加工品	2,258.7	100.0	100.1	102.5	101.2	102.1	0.6	0.1	2.4	▲ 1.3	0.9	0.2
食用油・同加工品	391.5	100.0	99.4	99.9	97.6	97.4	0.7	▲ 0.6	0.5	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 0.0
砂糖	15.9	100.0	103.6	101.3	99.5	95.9	▲ 3.6	3.6	▲ 2.2	▲ 1.8	▲ 3.6	▲ 0.0
調味料	778.2	100.0	99.8	100.4	98.9	97.6	▲ 0.3	▲ 0.2	0.5	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 0.1
飲料	989.0	100.0	105.4	108.1	109.5	107.5	▲ 1.5	5.4	2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 0.2
菓子	428.1	100.0	99.2	99.0	100.3	98.9	4.0	▲ 0.8	▲ 0.2	1.3	▲ 1.5	▲ 0.1
調理食品	992.2	100.0	99.3	106.2	110.2	110.0	2.2	▲ 0.7	7.0	3.8	▲ 0.2	▲ 0.0
その他食品	115.5	100.0	101.3	102.2	101.3	103.4	5.0	1.3	0.9	▲ 0.9	2.1	0.0
酒類	1,731.5	100.0	98.3	97.1	93.8	89.3	▲ 0.0	▲ 1.7	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 0.8

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

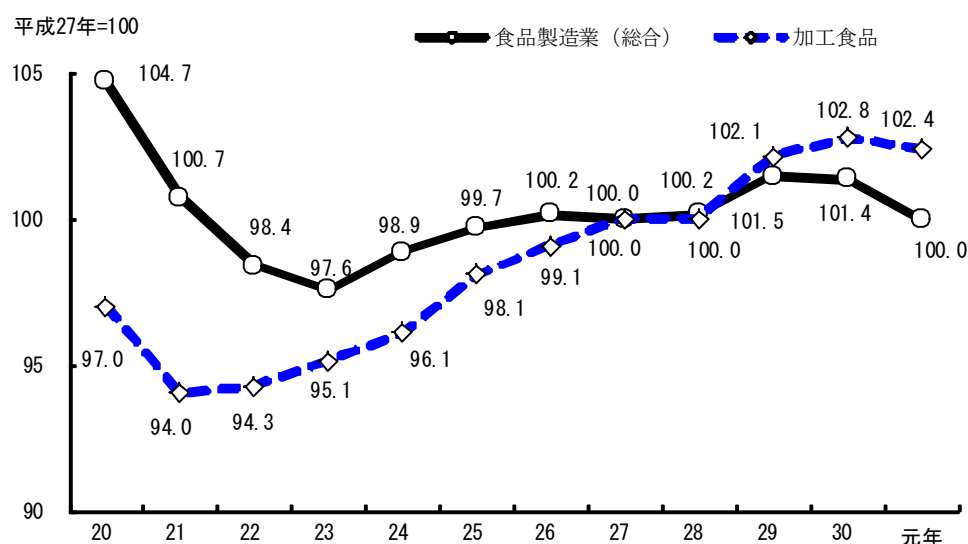
(2) 出荷指数

令和元年の食品製造業（総合）の出荷指数は100.0で、対前年比▲1.4%とわずかに低下

令和元年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成27年=100）は100.0で、対前年比▲1.4%とわずかに低下した。うち、加工食品の出荷指数（平成27年=100）は102.4で、対前年比▲0.4%と前年並みとなった（図2-3）。

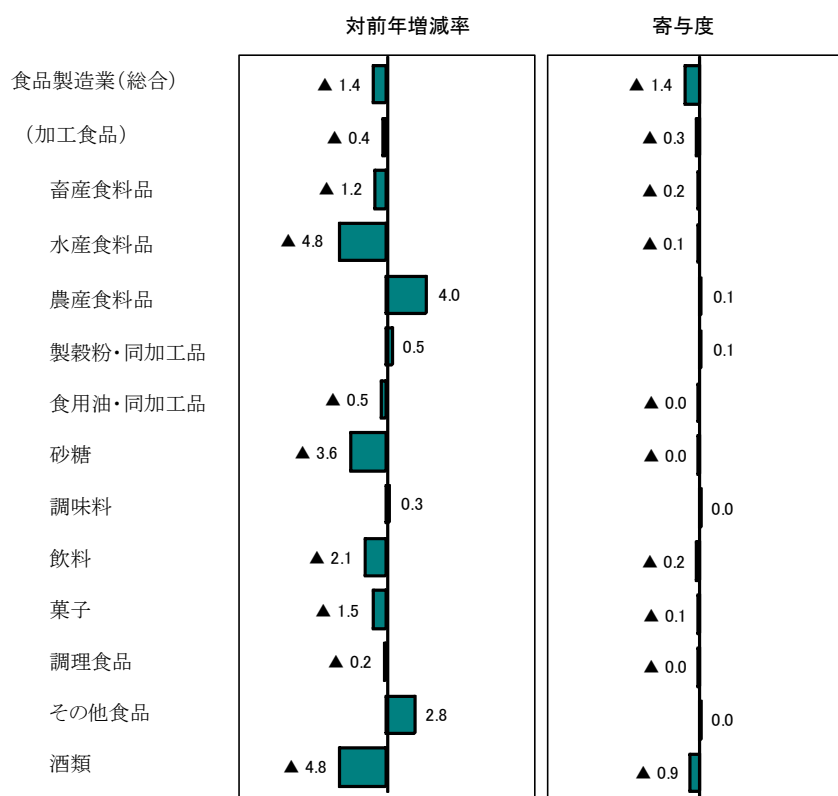
対前年比を部門別にみると、農産食料品がやや上昇、その他食品がわずかに上昇した。一方、水産食料品、砂糖及び酒類がやや低下、畜産食料品、飲料及び菓子がわずかに低下した。また、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、調味料及び調理食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の出荷指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、農産食料品及び製穀粉・同加工品はプラスに、酒類はマイナスであった（図2-4、表2-2）。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	100.2	101.5	101.4	100.0	▲ 0.2	0.2	1.3	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 1.4
(加工食品)	6,901.1	100.0	100.0	102.1	102.8	102.4	0.9	▲ 0.0	2.1	0.6	▲ 0.4	▲ 0.3
畜産食料品	1,899.7	100.0	101.6	104.0	104.9	103.7	0.1	1.6	2.3	0.9	▲ 1.2	▲ 0.2
水産食料品	301.3	100.0	97.2	95.9	97.6	93.0	▲ 1.2	▲ 2.8	▲ 1.4	1.9	▲ 4.8	▲ 0.1
農産食料品	271.5	100.0	97.4	94.3	95.2	99.0	1.5	▲ 2.6	▲ 3.2	0.9	4.0	0.1
製穀粉・同加工品	1,964.9	100.0	99.7	101.3	100.2	100.8	0.6	▲ 0.3	1.6	▲ 1.0	0.5	0.1
食用油・同加工品	456.2	100.0	100.1	100.2	98.2	97.6	0.3	0.1	0.1	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 0.0
砂糖	18.5	100.0	103.6	101.3	99.5	95.9	▲ 3.6	3.6	▲ 2.2	▲ 1.8	▲ 3.6	▲ 0.0
調味料	199.5	100.0	101.9	102.1	101.2	101.4	▲ 0.7	1.9	0.2	▲ 1.0	0.3	0.0
飲料	1,081.5	100.0	104.8	105.4	106.6	104.3	▲ 6.9	4.8	0.6	1.1	▲ 2.1	▲ 0.2
菓子	498.8	100.0	99.2	99.0	100.3	98.9	4.0	▲ 0.8	▲ 0.2	1.3	▲ 1.5	▲ 0.1
調理食品	1,156.1	100.0	99.3	106.2	110.2	110.0	2.2	▲ 0.7	7.0	3.8	▲ 0.2	▲ 0.0
その他食品	134.5	100.0	98.1	101.5	99.7	102.4	6.7	▲ 1.9	3.5	▲ 1.8	2.8	0.0
酒類	2,017.4	100.0	98.3	97.1	93.8	89.3	▲ 0.0	▲ 1.7	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 0.9

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

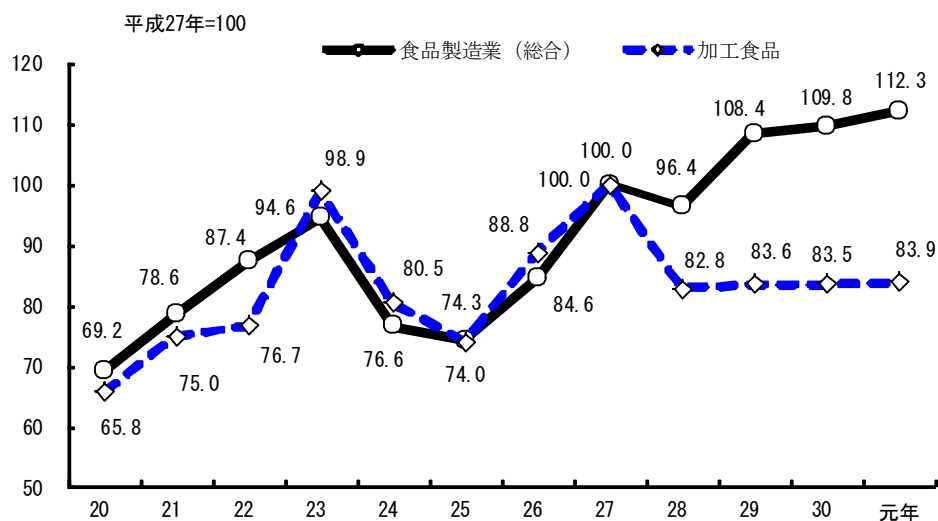
(3) 在庫指数

令和元年の食品製造業（総合）の在庫指数は112.3で、対前年比2.4%とわずかに上昇

令和元年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成27年=100）は112.3で、対前年比2.4%とわずかに上昇した。うち、加工食品の在庫指数（平成27年=100）は83.9で、対前年比0.5%と前年並みとなった（図2-5）。

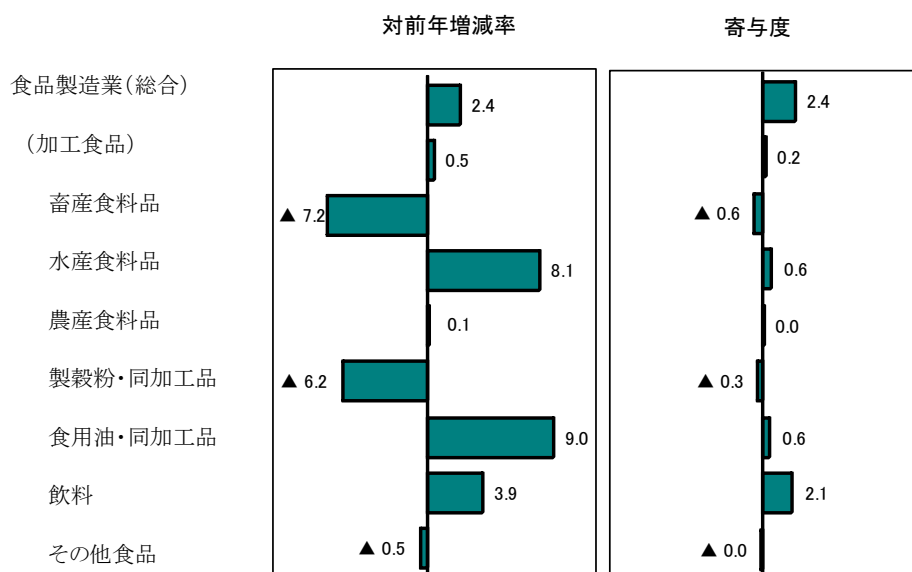
部門別に対前年比をみると、水産食料品及び食用油・同加工品がかなりの程度上昇し、飲料がやや上昇した。一方、畜産食料品及び製穀粉・同加工品がかなりの程度低下した。また、農産食料品及びその他食品は前年並みとなった（図2-6、表2-3）。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	96.4	108.4	109.8	112.3	18.3	▲ 3.6	12.4	1.2	2.4	2.4
(加工食品)	6,038.3	100.0	82.8	83.6	83.5	83.9	12.7	▲ 17.2	1.0	▲ 0.0	0.5	0.2
畜産食料品	1,195.3	100.0	95.5	80.4	75.2	69.8	61.5	▲ 4.5	▲ 15.8	▲ 6.4	▲ 7.2	▲ 0.6
水産食料品	1,372.4	100.0	78.2	64.5	62.1	67.2	41.5	▲ 21.8	▲ 17.5	▲ 3.6	8.1	0.6
農産食料品	1,236.3	100.0	50.2	100.4	100.3	100.5	▲ 1.5	▲ 49.8	100.0	▲ 0.1	0.1	0.0
製穀粉・同加工品	729.9	100.0	95.5	88.4	84.2	79.0	▲ 2.7	▲ 4.5	▲ 7.4	▲ 4.8	▲ 6.2	▲ 0.3
食用油・同加工品	880.4	100.0	84.9	87.0	78.4	85.5	22.2	▲ 15.1	2.4	▲ 9.9	9.0	0.6
飲料	3,961.7	100.0	117.3	146.4	149.7	155.6	27.9	17.3	24.8	2.3	3.9	2.1
その他食品	624.1	100.0	115.0	87.5	119.5	118.9	▲ 32.5	15.0	▲ 23.9	36.6	▲ 0.5	▲ 0.0

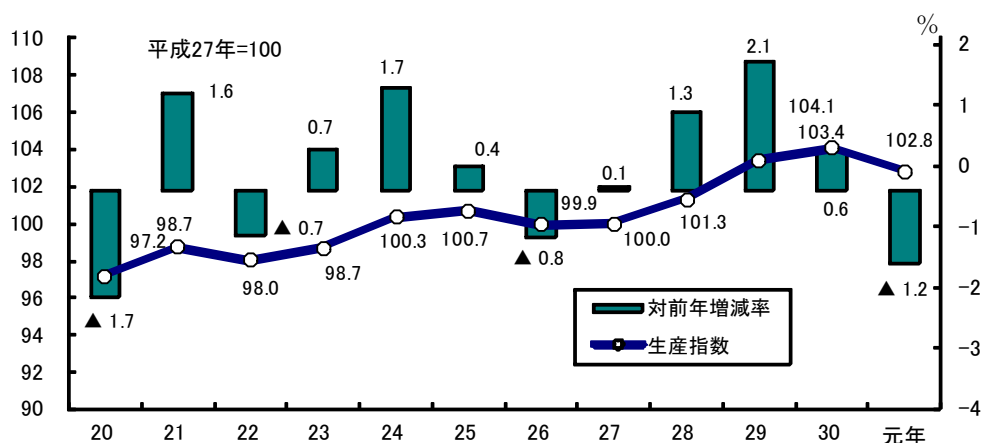
注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

令和元年の畜産食料品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は102.8で、対前年比▲1.2%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、変動はあるが上昇傾向にある（図2-7）。

対前年比を品目別にみると、食肉缶・びん詰がかなりの程度上昇した。一方、はっ酵乳・乳酸菌飲料がやや低下、乳製品類がわずかに低下した。また、食肉加工品、飲用牛乳等及び乳飲料は前年並みであった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、乳製品類、食肉加工品及び製穀粉・同加工品はマイナスであった（図2-8、表2-4）。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品は前年並み、ハム類、ベーコン類は前年並み、ソーセージ類はわずかに低下

食肉加工品の生産量は55万1千トンで、生産指数は対前年比▲0.9%と前年並みとなった。内訳についてみると、ハム類の生産量は11万3千トンで、生産指数は対前年比0.5%と前年並み、ベーコン類についても生産量が9万7千トンで、生産指数は対前年比0.1%と前年並み、一方、ソーセージ類については生産量が31万7千トンで、生産指数は対前年比▲1.7%でわずかに低下した。

飲用牛乳等、乳飲料は前年並み、はっ酵乳・乳酸菌飲料はやや低下

飲用牛乳等の生産量は356万klで、生産指数は対前年比0.1%と前年並みとなった。また、乳飲料も112万5千klで、生産指数は対前年比▲0.4%で前年並みとなった。一方、はっ酵乳・乳酸菌飲料は175万klで、生産指数は対前年比▲3.7%とやや低下した。

乳製品類はわずかに低下、バター、脱脂粉乳はやや上昇、チーズはわずかに低下

乳製品類の生産量は41万9千トンで、生産指数は対前年比▲1.9%とわずかに低下した。内訳についてみるとバターの生産量は6万2千トンで、生産指数は対前年比4.9%とやや上昇した。脱脂粉乳の生産量も12万5千トンで、生産指数は対前年比4.1%とやや上昇した。一方、チーズの生産量は15万5千トンで、生産指数は対前年比▲1.0%とわずかに低下した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

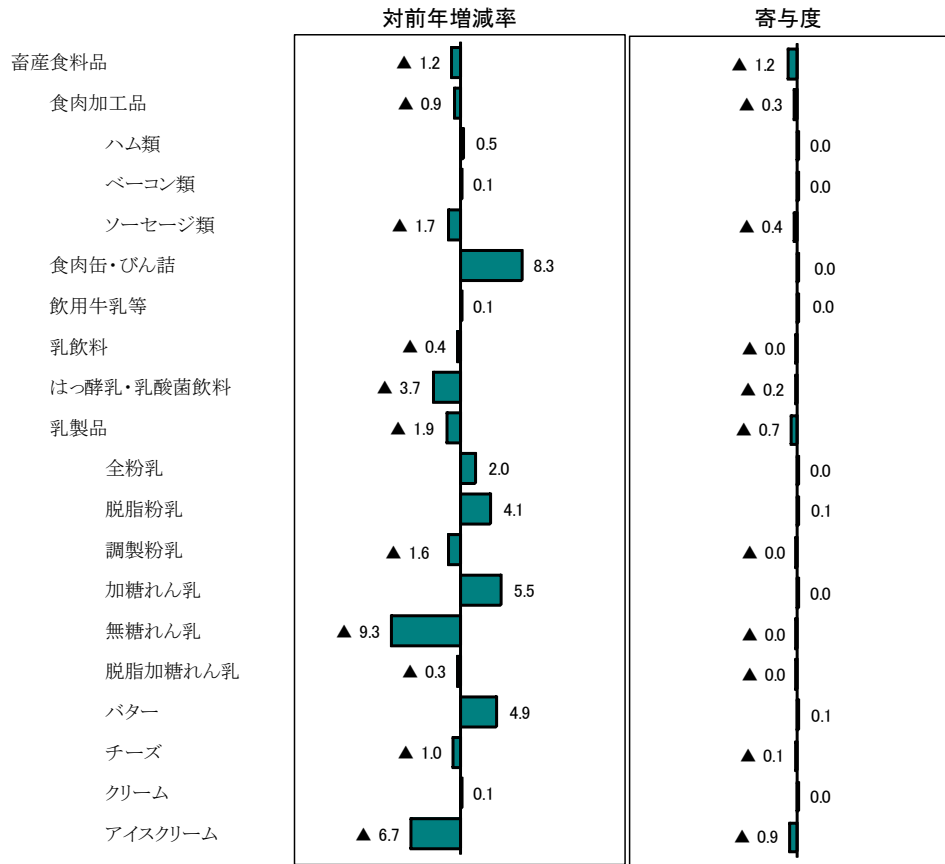


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

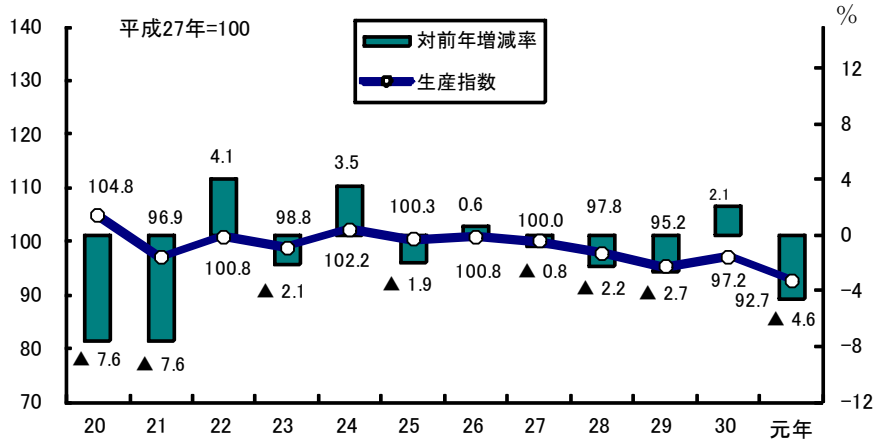
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
畜産食料品	1,630.5	100.0	101.3	103.4	104.1	102.8	0.1	1.3	2.1	0.6	▲ 1.2	▲ 1.2
食肉加工品	575.6	100.0	101.4	104.9	106.2	105.3	▲ 1.2	1.4	3.4	1.3	▲ 0.9	▲ 0.3
ハム類	120.7	100.0	100.1	105.3	106.9	107.4	▲ 1.2	0.1	5.2	1.5	0.5	0.0
ベーコン類	101.9	100.0	103.6	107.5	109.4	109.5	1.8	3.6	3.8	1.7	0.1	0.0
ソーセージ類	353.1	100.0	101.2	103.9	105.1	103.4	▲ 2.0	1.2	2.7	1.1	▲ 1.7	▲ 0.4
食肉缶・びん詰	3.0	100.0	93.7	89.2	93.7	101.5	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 4.8	5.0	8.3	0.0
飲用牛乳等	304.8	100.0	101.0	102.1	102.9	103.0	0.0	1.0	1.1	0.8	0.1	0.0
乳飲料	72.9	100.0	94.7	90.2	86.5	86.2	▲ 1.9	▲ 5.3	▲ 4.8	▲ 4.1	▲ 0.4	▲ 0.0
はっ酵乳・乳酸菌飲料	98.4	100.0	103.1	103.8	103.2	99.4	3.4	3.1	0.7	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.2
乳製品	575.7	100.0	101.9	104.4	105.0	103.0	1.0	1.9	2.4	0.6	▲ 1.9	▲ 0.7
全粉乳	5.0	100.0	97.0	79.4	82.6	84.2	▲ 1.8	▲ 3.0	▲ 18.1	4.0	2.0	0.0
脱脂粉乳	53.8	100.0	99.2	94.1	93.3	97.1	7.3	▲ 0.8	▲ 5.1	▲ 0.9	4.1	0.1
調製粉乳	11.0	100.0	105.1	101.5	105.6	103.9	▲ 1.3	5.1	▲ 3.4	4.0	▲ 1.6	▲ 0.0
加糖れん乳	14.5	100.0	101.7	99.8	93.3	98.5	2.6	1.7	▲ 1.9	▲ 6.4	5.5	0.0
無糖れん乳	0.3	100.0	95.1	74.0	72.8	66.0	▲ 6.2	▲ 4.9	▲ 22.2	▲ 1.7	▲ 9.3	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.6	100.0	93.8	93.1	103.1	102.8	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 0.7	10.7	▲ 0.3	▲ 0.0
バター	46.8	100.0	102.2	92.3	91.8	96.3	6.7	2.2	▲ 9.7	▲ 0.5	4.9	0.1
チーズ	153.3	100.0	101.3	104.7	110.4	109.3	12.1	1.3	3.4	5.4	▲ 1.0	▲ 0.1
クリーム	90.0	100.0	96.1	100.2	100.6	100.7	▲ 1.4	▲ 3.9	4.2	0.4	0.1	0.0
アイスクリーム	199.5	100.0	105.7	112.8	110.6	103.2	▲ 7.4	5.7	6.7	▲ 2.0	▲ 6.7	▲ 0.9

2 水産食料品

令和元年の水産食料品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は92.7で、対前年比▲4.6%とやや低下した。なお、近年の推移は、変動はあるが低下傾向にある（図2-9）。

対前年比を品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類はわずかに低下した。また、水産缶・びん詰はかなり大きく低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、水産缶・びん詰及びちくわかまぼこ類はマイナスであった（図2-10、表2-5）。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はわずかに低下、水産缶・びん詰はかなり大きく低下

ちくわ・かまぼこ類の生産量は44万トンで、生産指数は対前年比▲2.0%とわずかに低下した。また、水産缶・びん詰の生産量は9万8千トンで、生産指数は対前年比▲12.2%とかなり大きく低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

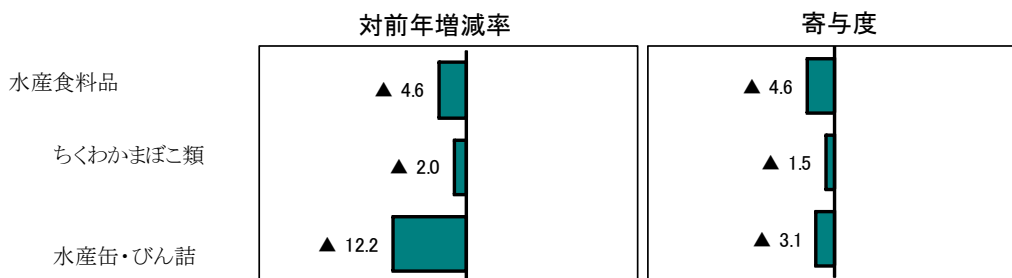


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

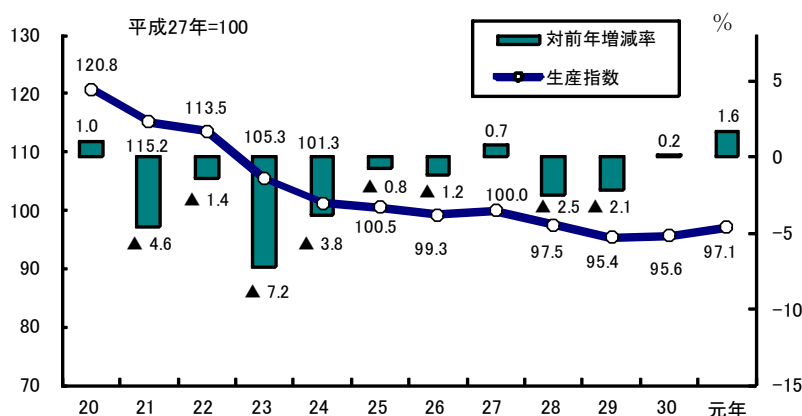
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
水産食料品	258.6	100.0	97.8	95.2	97.2	92.7	▲0.8	▲2.2	▲2.7	2.1	▲4.6	▲4.6
ちくわかまぼこ類	196.8	100.0	96.7	94.4	95.4	93.5	0.0	▲3.3	▲2.4	1.1	▲2.0	▲1.5
水産缶・びん詰	61.9	100.0	101.3	97.6	102.8	90.3	▲3.4	1.3	▲3.6	5.3	▲12.2	▲3.1

3 農産食料品

令和元年の農産食料品の生産指数（平成 27 年=100、暫定値）は 97.1 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。なお、近年の推移は、変動はあるが低下傾向にある（図2-11）。

対前年比を品目別にみると、野菜・果実漬物はやや上昇した。一方、農産缶・びん詰及びトマト加工品はわずかに低下した。また、乾燥野菜は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、野菜・果実漬物はプラス、トマト加工品及び農産缶・びん詰はマイナスであった（図2-12、表2-6）。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はやや上昇

野菜・果実漬物の生産量は 74 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 5.2 %とやや上昇した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 11 万 3 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下、酢漬類の生産量は 10 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 4.6 %とやや上昇した。浅漬類の生産量は 13 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 9.0 %とかなりの程度上昇し、醤油漬類も 30 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 7.8 %とかなりの程度上昇した。

農産缶・びん詰はわずかに低下

農産缶・びん詰の生産量は 12 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下した。内訳についてみると、野菜缶・びん詰が 4 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 2.6 %とわずかに上昇した。令和元年度においては、台風や暖冬等の影響により、生鮮向け野菜の規格に適さないものを缶詰等加工向けにシフトしたことが一因と見受けられる。一方、果実缶・びん詰は 4 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲ 2.7 %とわずかに低下した、また、ジャムびんの生産量は 3 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 5.9 %とやや低下した。

トマト加工品はわずかに低下

トマト加工品の生産量は 9 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.6 %とわずかに低下した。トマトケチャップ、トマトピューレ及びその他トマトのいずれも生産量が前年を下回ったため、全体でもわずかな低下となった。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

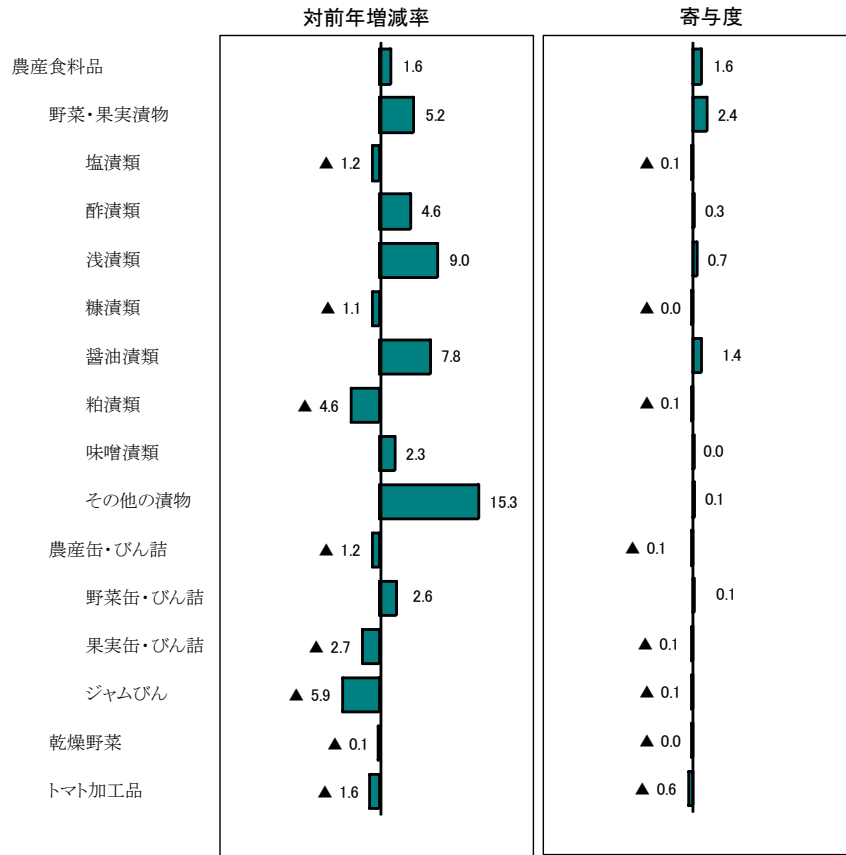


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

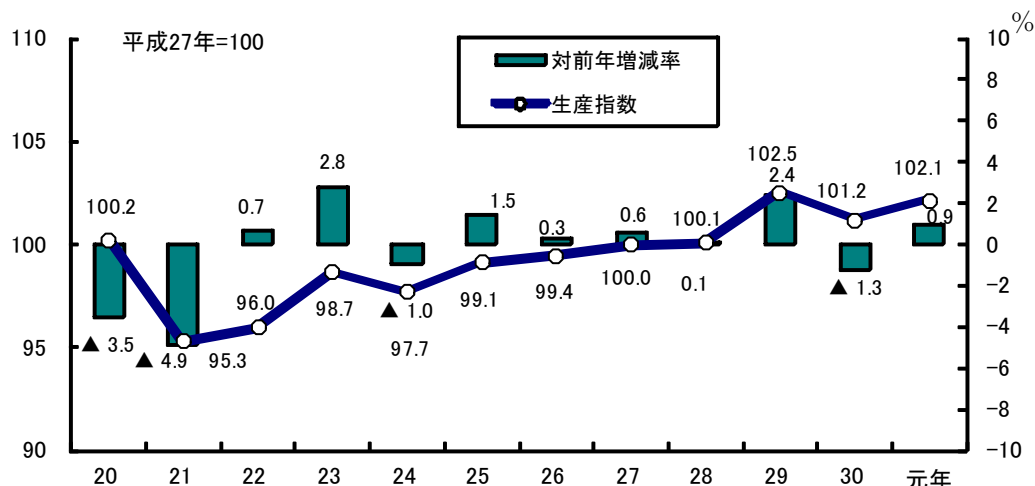
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
農産食料品	410.3	100.0	97.5	95.4	95.6	97.1	0.7	▲ 2.5	▲ 2.1	0.2	1.6	1.6
野菜・果実漬物	184.7	100.0	98.7	95.7	97.6	102.7	2.5	▲ 1.3	▲ 3.0	1.9	5.2	2.4
塩漬類	27.8	100.0	105.3	103.4	105.1	103.8	8.4	5.3	▲ 1.8	1.6	▲ 1.2	▲ 0.1
酢漬類	19.1	100.0	108.4	116.8	132.1	138.2	6.0	8.4	7.7	13.1	4.6	0.3
浅漬類	34.3	100.0	96.9	96.6	94.1	102.6	13.3	▲ 3.1	▲ 0.3	▲ 2.6	9.0	0.7
糠漬類	11.9	100.0	98.3	102.5	92.0	91.0	▲ 7.9	▲ 1.7	4.2	▲ 10.2	▲ 1.1	▲ 0.0
醤油漬類	81.6	100.0	93.9	86.7	89.4	96.4	▲ 2.0	▲ 6.1	▲ 7.6	3.1	7.8	1.4
粕漬類	5.9	100.0	102.5	86.0	84.5	80.7	▲ 8.1	2.5	▲ 16.1	▲ 1.7	▲ 4.6	▲ 0.1
味噌漬類	1.9	100.0	133.2	123.9	124.1	127.0	28.6	33.2	▲ 7.0	0.2	2.3	0.0
その他の漬物	2.3	100.0	101.9	98.6	99.4	114.5	1.7	1.9	▲ 3.3	0.8	15.3	0.1
農産缶・びん詰	48.3	100.0	92.3	88.9	86.1	85.1	▲ 2.1	▲ 7.7	▲ 3.7	▲ 3.1	▲ 1.2	▲ 0.1
野菜缶・びん詰	20.6	100.0	87.6	84.4	79.0	81.0	0.2	▲ 12.4	▲ 3.7	▲ 6.4	2.6	0.1
果実缶・びん詰	19.8	100.0	95.0	91.2	89.8	87.3	▲ 4.6	▲ 5.0	▲ 4.0	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.1
ジャムびん	7.9	100.0	98.1	95.0	95.7	90.1	▲ 1.0	▲ 1.9	▲ 3.1	0.7	▲ 5.9	▲ 0.1
乾燥野菜	8.9	100.0	100.2	100.3	100.3	100.2	0.0	0.2	0.0	0.0	▲ 0.1	▲ 0.0
トマト加工品	168.3	100.0	97.4	96.7	95.8	94.3	▲ 0.3	▲ 2.6	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 0.6

4 製穀粉・同加工品

令和元年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は102.1で、対前年比0.9%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、変動はあるが上昇傾向にある（図2-13）。

対前年比を品目別にみると、パンはわずかに上昇したが、製粉・穀粉及びパン粉はわずかに低下した。また、めん類は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、パンはプラス、製粉・穀粉はマイナスであった（図2-14、表2-7）。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はわずかに低下

製粉・穀粉の生産量は46万5千トンで、生産指数は対前年比▲2.4%とわずかに低下した。プレミックスが1.3%でわずかに上昇したものの、米穀粉が▲3.0%とやや低下した。

めん類は前年並み、乾めん類はわずかに低下、マカロニ類はやや上昇

めん類の小麦粉使用量は147万5千トンで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。内訳についてみると、生めん類の小麦粉使用量は70万8千トンで、生産指数は対前年比▲0.6%と前年並みとなった。また、乾めん類は18万6千トンで、生産指数は対前年比▲1.0%とわずかに低下した。即席めん類は42万2千トンで、生産指数は対前年比0.5%と前年並みとなった。一方、マカロニ類は15万8千トンで、生産指数は対前年比3.5%とやや上昇した。

パンはわずかに上昇

パンの小麦粉使用量は124万8千トンで、生産指数は対前年比2.3%とわずかに上昇した。内訳についてみると、食パンの小麦粉使用量は59万7千トンで、生産指数は対前年比2.0%とわずかに上昇、菓子パンも40万8千トンで、生産指数は対前年比1.6%とわずかに上昇した。学給パンは2万4千トンで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。また、その他パンは21万9千トンで、生産指数は対前年比4.2%とやや上昇した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

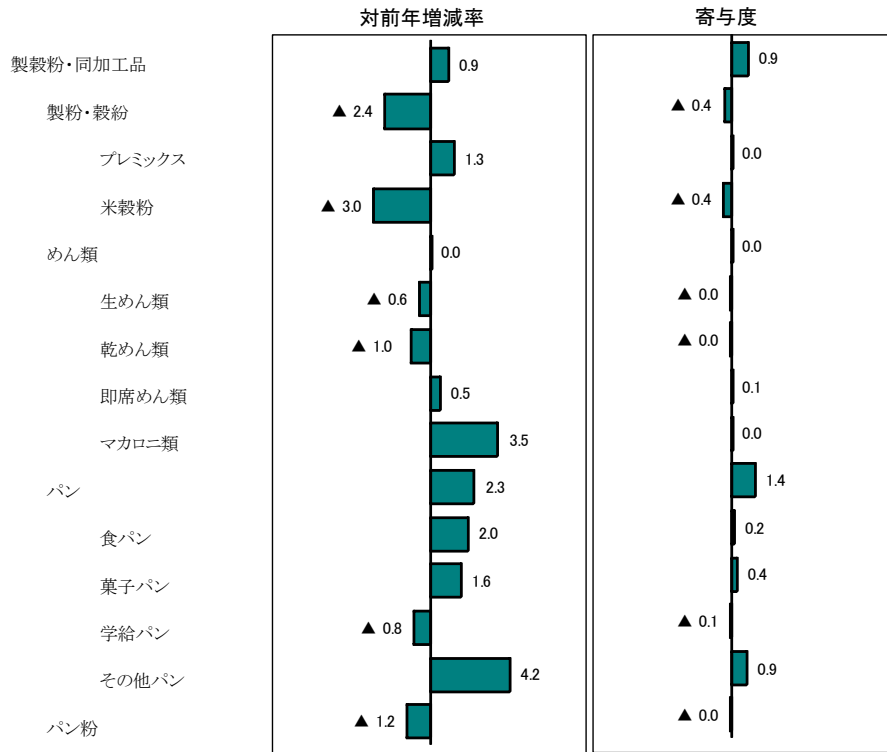


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

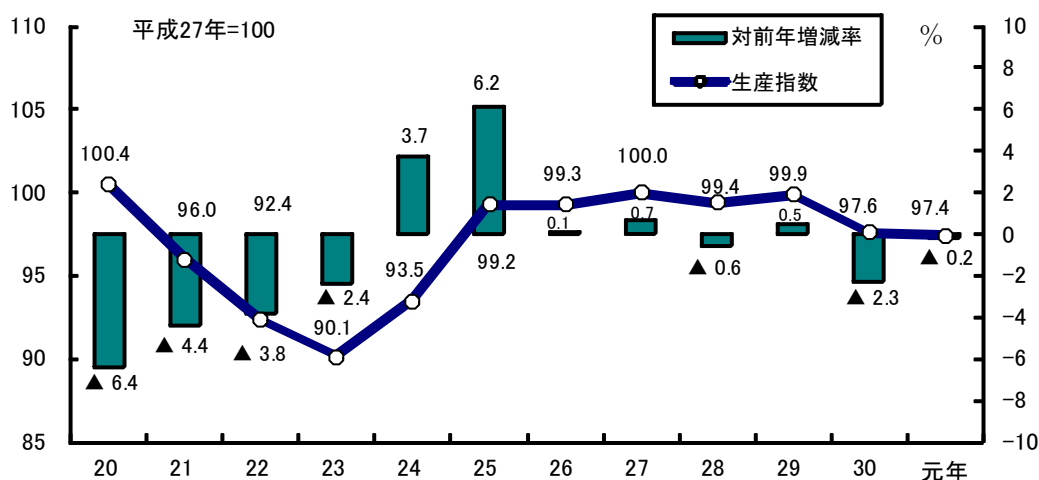
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
製穀粉・同加工品	2,258.7	100.0	100.1	102.5	101.2	102.1	0.6	0.1	2.4	▲ 1.3	0.9	0.9
製粉・穀紛	395.8	100.0	97.9	99.9	99.4	97.0	6.0	▲ 2.1	2.1	▲ 0.5	▲ 2.4	▲ 0.4
プレミックス	54.1	100.0	97.5	97.8	100.0	101.2	0.9	▲ 2.5	0.3	2.3	1.3	0.0
米穀粉	341.7	100.0	97.9	100.2	99.3	96.3	6.8	▲ 2.1	2.3	▲ 1.0	▲ 3.0	▲ 0.4
めん類	510.3	100.0	100.5	102.2	103.8	103.9	0.5	0.5	1.7	1.6	0.0	0.0
生めん類	158.2	100.0	104.5	110.7	114.1	113.4	8.1	4.5	5.9	3.1	▲ 0.6	▲ 0.0
乾めん類	104.6	100.0	95.2	95.6	96.3	95.3	▲ 8.5	▲ 4.8	0.4	0.8	▲ 1.0	▲ 0.0
即席めん類	214.8	100.0	101.2	100.5	101.5	102.1	0.9	1.2	▲ 0.7	1.0	0.5	0.1
マカロニ類	32.6	100.0	93.1	93.2	93.7	97.0	▲ 4.0	▲ 6.9	0.1	0.6	3.5	0.0
パン	1,325.0	100.0	100.6	103.4	100.7	103.0	▲ 0.9	0.6	2.8	▲ 2.6	2.3	1.4
食パン	202.0	100.0	99.9	99.5	96.7	98.6	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 2.8	2.0	0.2
菓子パン	522.5	100.0	100.0	101.5	99.5	101.1	4.3	0.0	1.5	▲ 2.0	1.6	0.4
学給パン	148.8	100.0	98.4	100.7	98.6	97.8	▲ 3.7	▲ 1.6	2.4	▲ 2.1	▲ 0.8	▲ 0.1
その他パン	451.6	100.0	102.2	108.1	104.5	108.9	▲ 5.7	2.2	5.8	▲ 3.3	4.2	0.9
パン粉	27.6	100.0	100.6	103.1	102.5	101.3	2.3	0.6	2.5	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 0.0

5 食用油・同加工品

令和元年の食用油・同加工品の生産指数（平成 27 年=100、暫定値）は 97.4 で、対前年比▲ 0.2 %と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成 25 年から平成29年にかけて横ばいであったが、平成30年は低下している（図2-15）。

対前年比を品目別にみると、植物油脂及び加工油脂のいずれも前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、植物油脂はプラス、加工油脂はマイナスであった（図2-16、表2-8）。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂及び加工油脂は、いずれも前年並み

植物油脂の生産量は 171 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 0.7 %と前年並みとなった。また、加工油脂の生産量も 68 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.6 %と前年並みとなった。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 15 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 3.1 %とやや上昇した。一方、食用精製加工油脂は 3 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲ 5.2 %とやや低下した。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

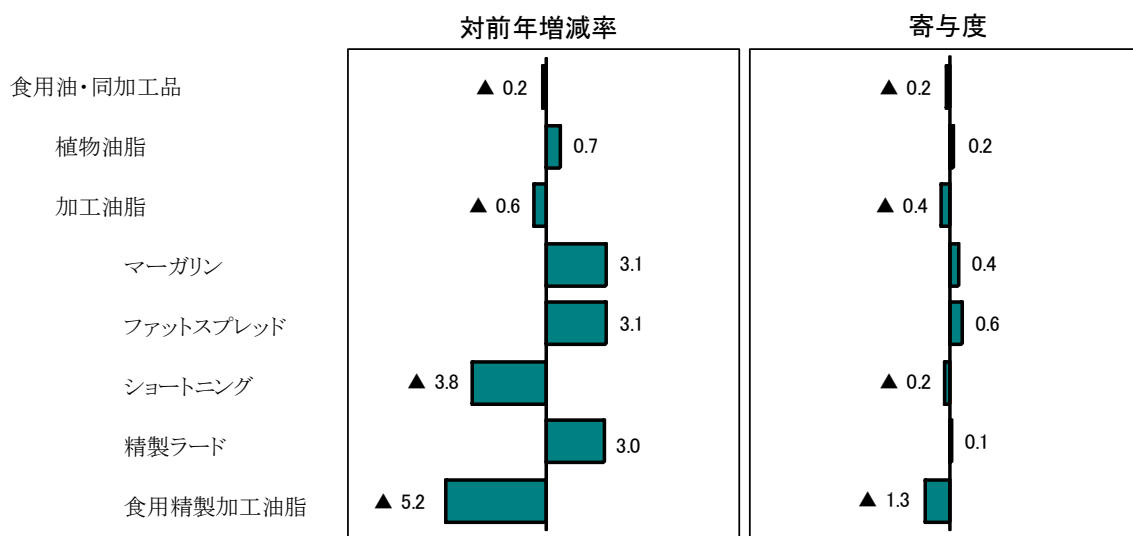


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
食用油・同加工品	391.5	100.0	99.4	99.9	97.6	97.4	0.7	▲ 0.6	0.5	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 0.2
植物油脂	126.2	100.0	99.0	102.4	100.3	101.0	1.9	▲ 1.0	3.5	▲ 2.1	0.7	0.2
加工油脂	265.3	100.0	99.6	98.6	96.3	95.7	0.2	▲ 0.4	▲ 1.0	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 0.4
マーガリン	53.6	100.0	100.1	99.8	97.1	100.1	0.8	0.1	▲ 0.4	▲ 2.7	3.1	0.4
ファットスプレッド	81.0	100.0	100.2	99.7	97.1	100.1	0.9	0.2	▲ 0.5	▲ 2.6	3.1	0.6
ショートニング	25.0	100.0	100.6	94.5	91.7	88.2	2.3	0.6	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 3.8	▲ 0.2
精製ラード	6.5	100.0	100.1	102.1	101.9	105.0	▲ 13.1	0.1	2.1	▲ 0.2	3.0	0.1
食用精製加工油脂	99.1	100.0	98.6	98.0	96.1	91.1	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 5.2	▲ 1.3

6 砂糖

令和元年の砂糖の生産指数（平成 27 年=100、一部推定を含む暫定値）は 95.9 で、対前年比▲ 3.6%とやや低下した。なお、近年の推移は、変動はあるが低下傾向にある（図2-17）。

対前年比を品目別にみると、冰糖が対前年比で大幅に上昇した。一方、中白がかなり大きく低下し、中双及び三温がかなりの程度低下し、白双、上白及び角糖がやや低下し、グラニュー糖及び液糖はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、冰糖はプラス、上糖、グラニュー糖、液糖、三糖、中双及び白双はマイナスであった（図2-18、表2-9）。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

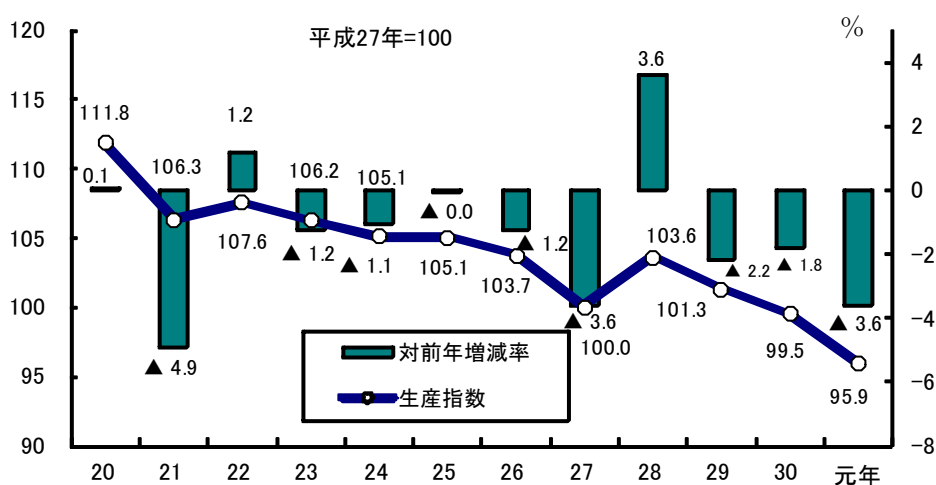


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

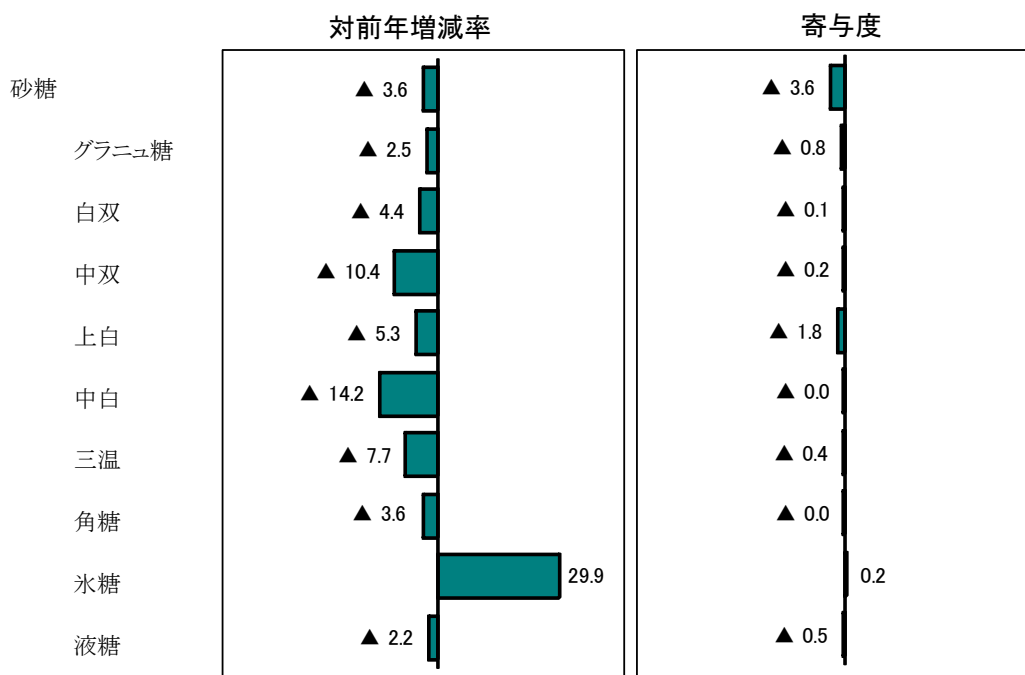


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

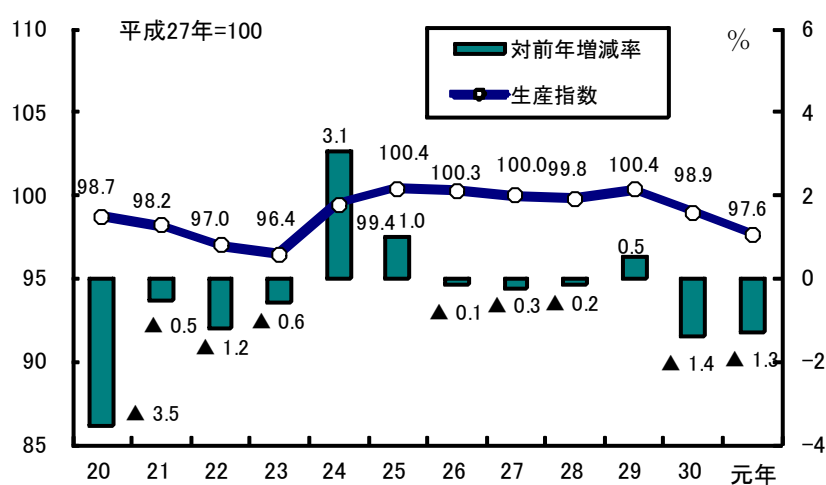
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
砂糖	15.9	100.0	103.6	101.3	99.5	95.9	▲ 3.6	3.6	▲ 2.2	▲ 1.8	▲ 3.6	▲ 3.6
グラニュー糖	4.8	100.0	102.7	102.7	104.0	101.4	▲ 1.3	2.7	▲ 0.1	1.3	▲ 2.5	▲ 0.8
白双	0.4	100.0	101.7	96.1	92.4	88.3	2.2	1.7	▲ 5.5	▲ 3.9	▲ 4.4	▲ 0.1
中双	0.3	100.0	99.8	96.1	78.9	70.7	0.6	▲ 0.2	▲ 3.7	▲ 17.9	▲ 10.4	▲ 0.2
上白	5.5	100.0	104.9	101.4	98.3	93.1	▲ 6.9	4.9	▲ 3.3	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 1.8
中白	0.0	100.0	132.7	81.7	92.7	79.5	3.7	32.7	▲ 38.4	13.5	▲ 14.2	▲ 0.0
三温	0.8	100.0	103.2	102.0	100.4	92.7	▲ 0.0	3.2	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 7.7	▲ 0.4
角糖	0.0	100.0	98.5	80.9	51.4	49.5	▲ 2.7	▲ 1.5	▲ 17.9	▲ 36.5	▲ 3.6	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	116.7	89.9	103.5	134.5	▲ 16.4	16.7	▲ 22.9	15.1	29.9	0.2
液糖	3.9	100.0	103.0	100.7	98.0	95.8	▲ 2.8	3.0	▲ 2.2	▲ 2.7	▲ 2.2	▲ 0.5

7 調味料

令和元年の調味料の生産指数（平成27年=100、暫定値）は97.6で、対前年比▲1.3%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、平成25年から平成29年にかけて横ばいであったが、平成30年及び令和元年は低下している（図2-19）。

対前年比を品目別にみると、マヨネーズは対前年比でわずかに上昇した。一方、ドレッシングはわずかに低下した。また、味噌及びしょうゆ等は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、マヨネーズ及び味噌はプラス、ドレッシングはマイナスであった（図2-20、表2-10）。

図2-19 調味料の生産指数の推移



味噌、しょうゆ等とともに前年並み

味噌の生産量48万2千トンで、生産指数は対前年比0.7%と前年並みとなった。しょうゆ等の出荷量も106万4千klで、生産指数は対前年比▲0.0%と前年並みとなった。また、

マヨネーズはわずかに上昇、ドレッシングはわずかに低下

マヨネーズの生産量は22万5千トンで、生産指数は対前年比2.0%とわずかに上昇した。一方、ドレッシングの生産量は18万5千トンで、生産指数は対前年比▲2.6%とわずかに低下した。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

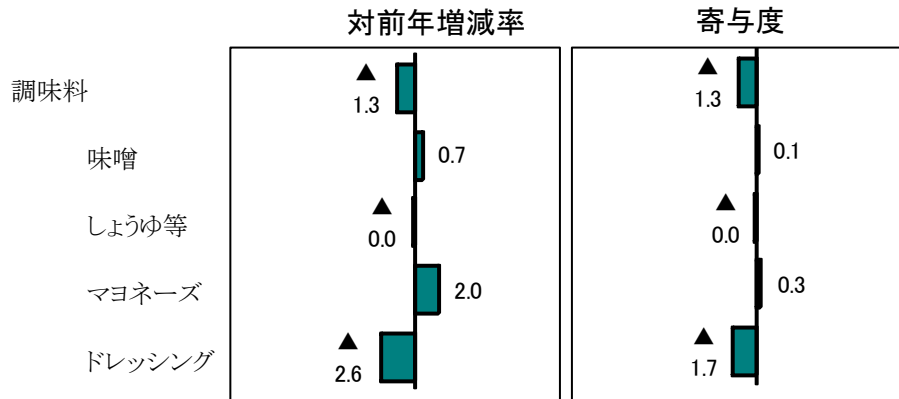


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

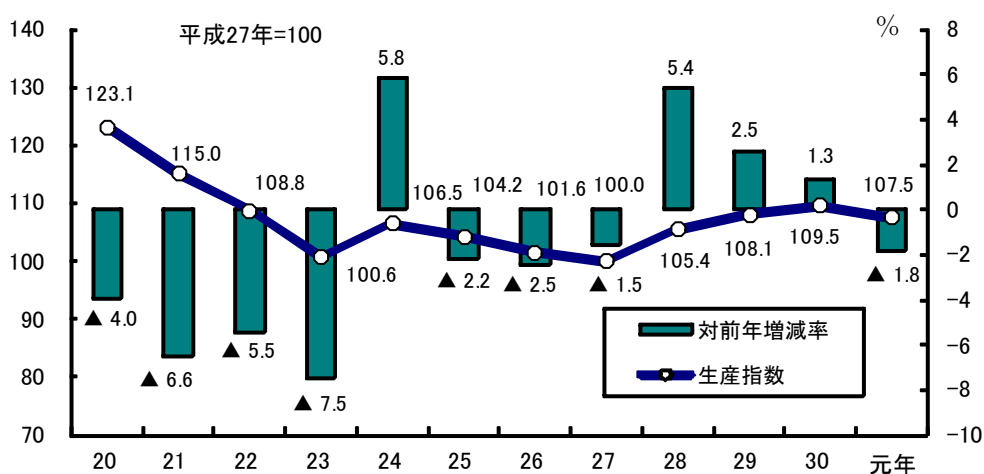
年次 品目	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
調味料	778.2	100.0	99.8	100.4	98.9	97.6	▲ 0.3	▲ 0.2	0.5	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 1.3
味噌	73.1	100.0	103.1	104.4	103.6	104.3	0.1	3.1	1.3	▲ 0.8	0.7	0.1
しょうゆ等	98.2	100.0	101.0	100.4	99.4	99.3	▲ 1.4	1.0	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 0.0	▲ 0.0
マヨネーズ	108.6	100.0	103.4	103.8	102.8	104.9	0.7	3.4	0.4	▲ 0.9	2.0	0.3
ドレッシング	498.4	100.0	98.3	99.0	97.3	94.8	▲ 0.3	▲ 1.7	0.7	▲ 1.7	▲ 2.6	▲ 1.7

8 飲料

令和元年の飲料の生産指数（平成27年=100、暫定値）は107.5で、対前年比▲1.8%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、変動はあるが横ばい傾向となっている（図2-21）。

対前年比を品目別にみると炭酸飲料及び果実飲料が対前年比でやや低下し、コーヒー・茶系飲料及びトマト飲料は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、トマト飲料はプラス、炭酸飲料、果実飲料及びコーヒー・茶系飲料はマイナスであった（図2-22、表2-11）。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料、果実飲料はともにやや低下

炭酸飲料の生産量は207万8千klで、生産指数は対前年比▲5.3%とやや低下した。また、果実飲料も生産量が72万7千klで、生産指数は対前年比▲4.3%とやや低下した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は985万klで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。

トマト飲料は前年並み

トマト飲料の生産量は11万klで、生産指数は対前年比0.8%と前年並みとなった。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

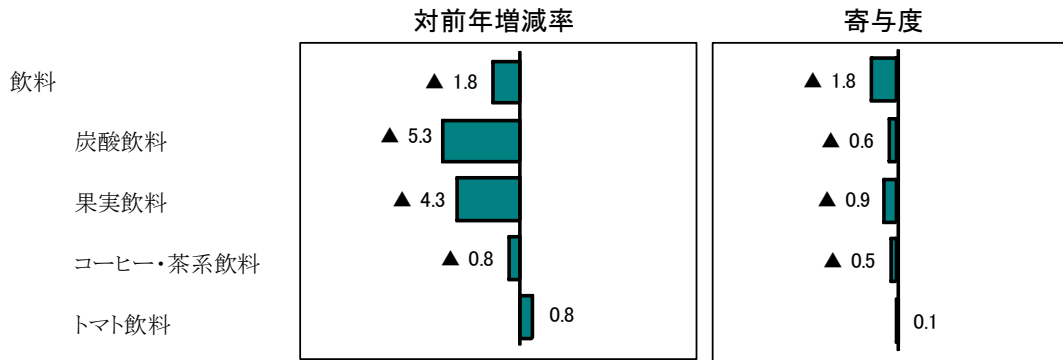


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

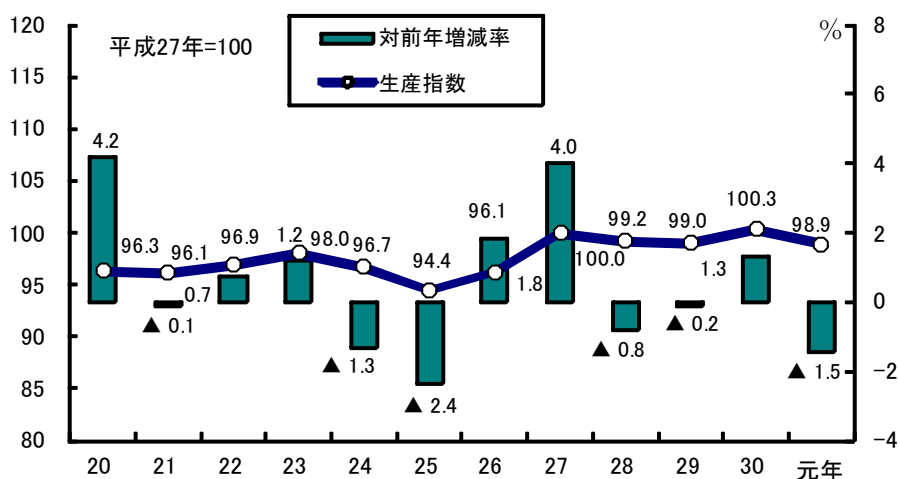
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
飲料	989.0	100.0	105.4	108.1	109.5	107.5	▲ 1.5	5.4	2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 1.8
炭酸飲料	125.5	100.0	98.3	94.2	92.6	87.7	▲ 3.4	▲ 1.7	▲ 4.2	▲ 1.6	▲ 5.3	▲ 0.6
果実飲料	234.7	100.0	106.7	103.4	96.4	92.3	▲ 6.9	6.7	▲ 3.1	▲ 6.8	▲ 4.3	▲ 0.9
コーヒー・茶系飲料	568.0	100.0	105.0	108.9	112.6	111.8	2.2	5.0	3.7	3.5	▲ 0.8	▲ 0.5
トマト飲料	60.8	100.0	118.1	146.8	165.0	166.4	▲ 8.8	18.1	24.3	12.4	0.8	0.1

9 菓子

令和元年の菓子の生産指数（平成27年=100、暫定値）は98.9で、対前年比▲1.5%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、平成27年以降横ばい傾向となっている（図2-23）。

対前年比を品目別にみると、ビスケットは対前年比でわずかに低下した。一方、米菓は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、米菓はプラス、ビスケットはマイナスであった（図2-24、表2-12）。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはわずかに低下、米菓は前年並み

ビスケットの生産量は25万2千トンで、生産指数は対前年比▲2.7%とわずかに低下した。一方、米菓の生産量は22万2千トンで、生産指数は対前年比0.1%と前年並みとなった。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

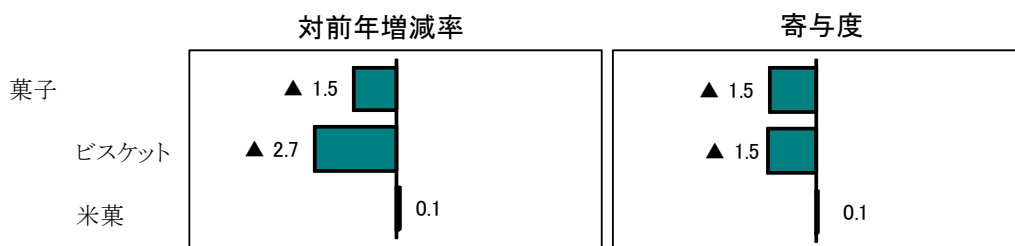


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

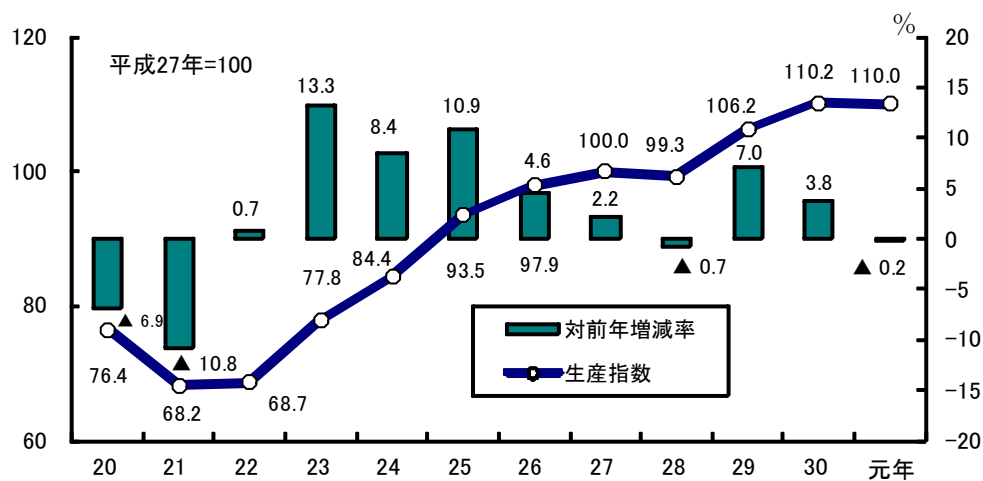
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
菓子	428.1	100.0	99.2	99.0	100.3	98.9	4.0	▲0.8	▲0.2	1.3	▲1.5	▲1.5
ビスケット	236.9	100.0	99.5	97.3	100.2	97.4	5.9	▲0.5	▲2.2	3.0	▲2.7	▲1.5
米菓	191.2	100.0	98.8	101.1	100.5	100.7	1.7	▲1.2	2.4	▲0.6	0.1	0.1

10 調理食品

令和元年の調理食品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は110.0で、対前年比▲0.2%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成21年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成23年の東日本大震災以降は備蓄需要の高まりや簡便化志向のニーズから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いてきた。変動はあるが上昇傾向にある（図2-25）。

対前年比を品目別にみると、加工米飯がわずかに上昇した。一方、調理缶・レトルトパウチがわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、加工米飯はプラス、調理缶・レトルトパウチはマイナスであった（図2-26、表2-13）。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はわずかに上昇

加工米飯の生産量は39万9千トンで、生産指数は対前年比2.2%とわずかに上昇した。加工米飯のなかでは継続的に無菌包装米飯の生産量が増加しており、手軽に食べられる簡便化志向のニーズに適していることや備蓄用から日常食としての位置づけが定着したことが一因とみられる。

カレーはかなりの程度低下、その他の調理食品は大幅に低下

調理缶・レトルトパウチの生産量は34万5千トンで、生産指数は対前年比▲19.6%と大幅に低下した。内訳についてみると、カレーの生産量は15万3千トンで、生産指数は対前年比▲8.6%とかなりの程度低下し、また、その他の調理食品の生産量は19万2千トンで、生産指数は対前年比▲26.6%と大幅に低下した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

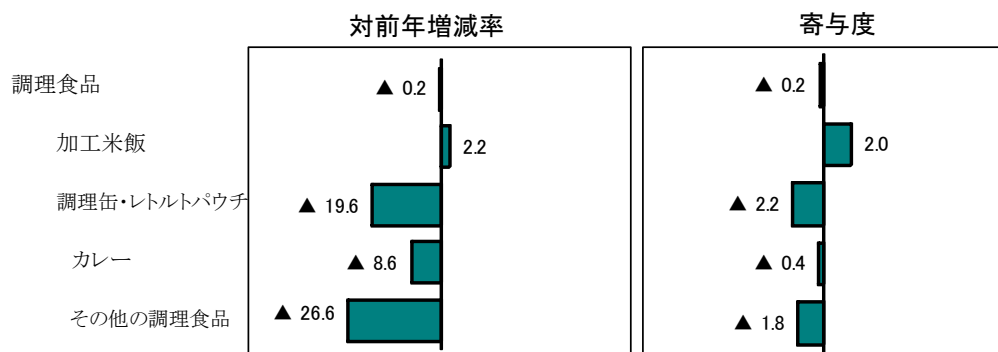


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

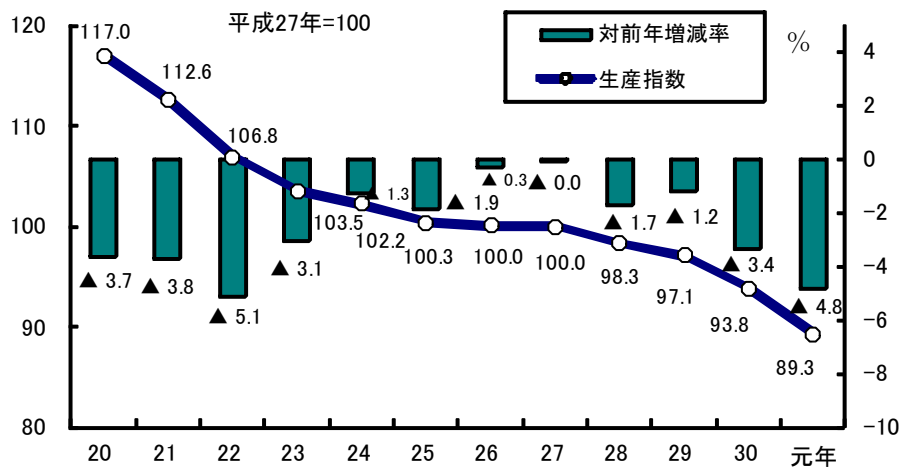
年次 品目	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	元/30年
調理食品	992.2	100.0	99.3	106.2	110.2	110.0	2.2	▲ 0.7	7.0	3.8	▲ 0.2	▲ 0.2
加工米飯	869.4	100.0	99.2	106.8	111.7	114.1	2.6	▲ 0.8	7.6	4.6	2.2	2.0
調理缶・レトルトパウチ	122.8	100.0	99.7	102.2	100.2	80.6	▲ 0.5	▲ 0.3	2.6	▲ 2.0	▲ 19.6	▲ 2.2
カレー	43.2	100.0	105.0	107.1	110.9	101.4	▲ 1.2	5.0	2.0	3.5	▲ 8.6	▲ 0.4
その他の調理食品	79.6	100.0	96.7	99.6	94.3	69.3	▲ 0.1	▲ 3.3	2.9	▲ 5.2	▲ 26.6	▲ 1.8

1.1 酒類

令和元年の酒類の生産指数（平成27年=100、一部推定を含む暫定値）は89.3で、対前年比▲4.8%とやや低下した。なお、近年の推移は、低下傾向にある（図2-27）。

対前年比を品目別にみると、スピリッツが対前年比でかなり大きく上昇し、ウイスキー及びリキュールがかなりの程度上昇した。一方、清酒はかなり大きく低下し、合成清酒、焼酎、ビール及び雑酒はかなりの程度低下し、果実酒及びブランデーはやや低下し、みりんはわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、リキュール、ウイスキー及びスピッツはプラス、ビール、清酒、焼酎、雑酒及び果実酒はマイナスであった。特に清酒、ビール、焼酎及び雑酒の低下が全体を押し下げている（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはかなりの程度低下

ビールの出荷量（1～11月）は212万4千klで、生産指数は対前年比▲6.5%とかなりの程度低下した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や消費者の低価格志向から、発泡酒やノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、近年は減少傾向で推移している。

また、特に若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

焼酎はかなりの程度低下、ウイスキーはかなりの程度上昇

焼酎の出荷量（1～11月）は66万4千klで、生産指数は対前年比▲6.3%とかなりの程度低下した。一方、ウイスキーの出荷量（1～11月）は14万9千klで、生産指数は対前年比6.3%とかなりの程度上昇した。

スピリッツはかなり大きく上昇、リキュールはかなりの程度上昇

スピリッツの出荷量（1～11月）は74万4千klで、生産指数は対前年比14.2%とかなり大きく上昇した。また、リキュールの出荷量（1～11月）は217万2千klで、生産指数は対前年比8.8%とかなりの程度上昇した。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

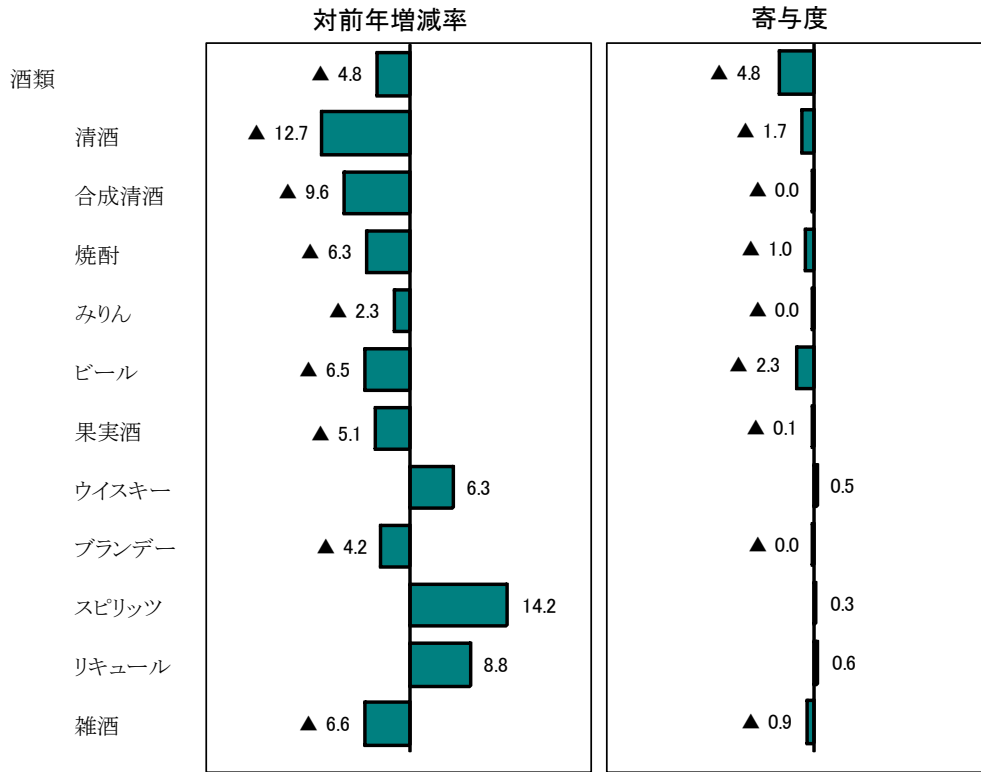
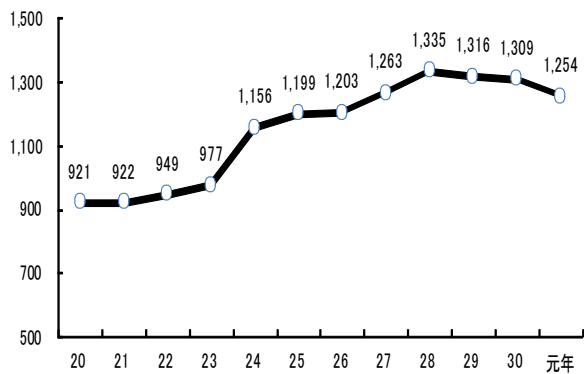


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

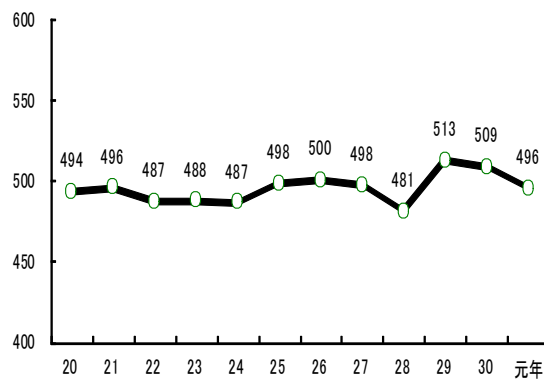
年次 品目	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 元/30年
		27年	28年	29年	30年	元年	27年	28年	29年	30年	元年	
酒類	1,731.5	100.0	98.3	97.1	93.8	89.3	▲ 0.0	▲ 1.7	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 4.8
清酒	242.8	100.0	97.2	96.0	89.2	77.9	▲ 2.0	▲ 2.8	▲ 1.3	▲ 7.1	▲ 12.7	▲ 1.7
合成清酒	4.5	100.0	92.5	88.2	79.6	71.9	▲ 4.7	▲ 7.5	▲ 4.6	▲ 9.8	▲ 9.6	▲ 0.0
焼酎	288.9	100.0	98.3	96.8	92.5	86.7	▲ 2.8	▲ 1.7	▲ 1.5	▲ 4.4	▲ 6.3	▲ 1.0
みりん	25.5	100.0	97.9	98.2	93.3	91.2	3.6	▲ 2.1	0.4	▲ 5.0	▲ 2.3	▲ 0.0
ビール	637.7	100.0	98.2	95.4	90.6	84.7	0.3	▲ 1.8	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 6.5	▲ 2.3
果実酒	44.7	100.0	98.2	102.8	107.3	101.9	1.2	▲ 1.8	4.7	4.4	▲ 5.1	▲ 0.1
ウイスキー	88.6	100.0	108.4	119.2	130.7	139.0	17.2	8.4	10.0	9.7	6.3	0.5
ブランデー	0.2	100.0	96.8	89.7	80.3	77.0	▲ 4.0	▲ 3.2	▲ 7.3	▲ 10.5	▲ 4.2	▲ 0.0
スピリッツ	23.8	100.0	115.5	129.7	150.8	172.3	12.1	15.5	12.3	16.3	14.2	0.3
リキュール	97.3	100.0	102.1	104.8	113.2	123.1	1.4	2.1	2.7	7.9	8.8	0.6
雑酒	277.4	100.0	93.5	88.6	81.2	75.9	▲ 2.5	▲ 6.5	▲ 5.2	▲ 8.3	▲ 6.6	▲ 0.9

(参考) 主要品目の生産量の推移 (平成20年～令和元年)

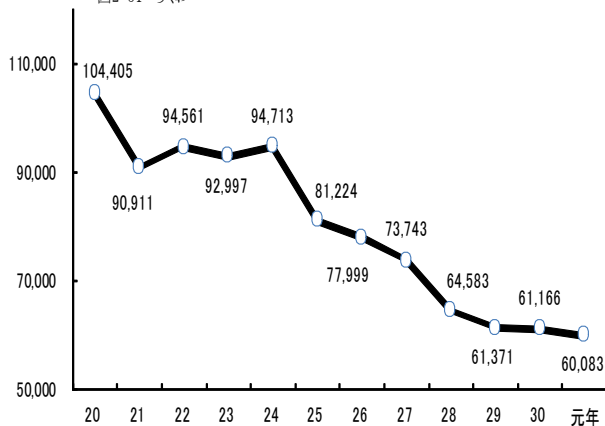
(千k) 図2-29 はっ酵乳類



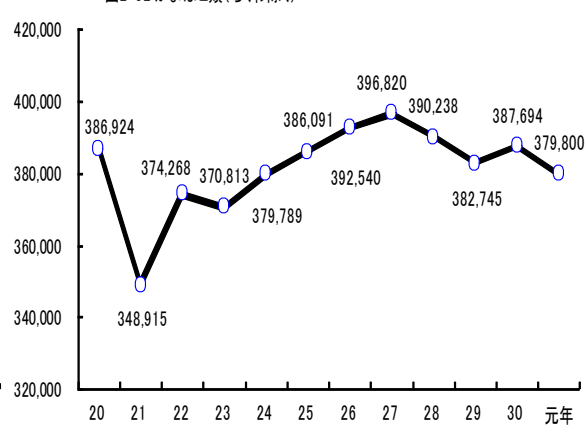
(千k) 図2-30 乳酸菌飲料類



(t) 図2-31 ちくわ



(t) 図2-32 かまぼこ類(ちくわ除く)



(t) 図2-33 漬物

